

2019年12月15日(日)朝10:10～

降誕前第2、自由交歓会等

12月第3待降節第3共同主日礼拝式説教 日本アライアンス庄原基督教会

説教題：ヨハネの誕生(57～)

聖書:ルカ 1章57～66節

＜口語訳＞

新約聖書84頁

ルカ 1章57～66節

＜新共同訳＞

新約聖書101～102頁

ルカ 1章57～66節

＜新改訳第3版＞

新約聖書107～108頁

ルカ 1章57～66節＜塚本訳＞

新約聖書169～ 頁

主題:主イエス様から賜った聖霊の導き

によって主の弟子たちは、主の名による
神の罪からの救いを宣べ伝えたように、
私たちも、福音を伝えたい。

序論；

◇新約聖書の**ルカ福音書**は、**神の民の救い**を神の福音として告げた書です。

◇本日は**クリスマス待降節第3主日**です。

⇒本日の「**ルカ福音書1章57～66節**」は、主が祭司ザカリヤに語り、「**罪からの救い主**」の先導者ヨハネがエリサベツに孕ませ、生れ、神のわざを信じなかったザカリヤのが解けて再び語れるようにして下さった箇所です。

◇「**ルカ福音書1章57～66節**」は、**老齡のエリサベツ**が、男の子を生むが、**マリヤ**や**ヨセフ**とは異なり、聖霊の介在を記していません。聖霊は陰に隠れ、ザカリヤとエリサベツの信仰の決断を問うことを求めています。

⇒「**ヨハネ自身**」が、**荒野で叫ぶ声**(3:4)とイザヤ書で預言された人でしたので、主の陰から陰に終わる人生を生き、ヘロデの愚かさのゆえ、そのいのちを落とすのです。

⇒人間の目には、意味のない人生を過ごしたのですが、「**御子イエス・キリスト様**」には、「**預言者以上の者(を見たの)だ**」(7:26)と見えていたのです。主は、その心をご覧になります。

本論；

◇本日、ルカ書1章57～66節から主の使信に
思い・心をとめます。

◆ルカ1章57～66節；ルカは、老夫婦ザカリヤ
とエリサベツを用いて、神が、救い主のわざの
道筋を整える旧約最後の偉大な預言者
「ヨハネの誕生」を実現し、神の御子イエス・
キリスト様の誕生陰の人であったことを
語っています。

◇56～66節；塚本訳◆ヨハネの誕生

「57 月満ちて、エリサベツは男の子を産んだ。

58 近所の者や親類は、主がエリサベツに大
きな憐れみをほどこされたと聞いて、自分
のこのように喜んだ。

59 (誕生から)八日目に、この人々が幼児に
割礼を施すためにあつまったときのこと、
(慣例もあり)父の名にちなんでザカリヤと
名をつけようとする、

60 母親が、「いけません、ヨハネとつけなくて
は」と言って反対した。

61 彼らは、「あなたの親類には、そんな名前
の者は一人もいない」とエリサベツに言って、

- 62 父親に、何と名をつけたいかと身振りであらずねた。
- 63 ザカリヤは石板を頼んで、「あれの名はヨハネ」と書いたので、皆が不思議に思った。
- 64 するとたちどころにザカリヤの口が開け舌が動き出してものが言えるようになり、神をほめたたえた。
- 65 近所の者に皆恐れが臨んだ。そしてこのことがことごとくユダヤの山地全体の評判になったので、
- 66 聞いた者は皆これを胸におさめ、「この幼児はいったい何になるのだろう」と考えた。主の(恵みの)御手もまたたしかにこの幼児に働いていたのである。」と、**ルカ**は、記しています。

◇**57～66節**；「月満ちて、エリサベツは男の子を産んだ(57)」、「近所の者や親類は、主がエリサベツに大きな憐れみをほどこされたと聞いて、自分のことのように喜んだ(59)」、「(誕生から)八日目に、この人々が幼児に割礼を施すためにあつまったときのこと、(慣例もあり)父の名にちなんでザカリヤと

名をつけようとする(59)」、「母親が、「いけません、ヨハネとつけなくては」と言って反対した(60)」、「彼らは、「あなたの親類には、そんな名前の者は一人もいない」とエリサベツに言って(61)」、「父親に、何と名をつけたいかと身振りであずねた(62)」、「ザカリヤは石板を頼んで、「あれの名はヨハネ」と書いたので、皆が不思議に思った(63)」、「するとたちどころにザカリヤの口が開け舌が動き出してものが言えるようになり、神をほめたたえた(64)」、「近所の者に皆恐れが臨んだ。そしてこのことがことごとくユダヤの山地全体の評判になったので(65)」、「聞いた者は皆これを胸におさめ、「この幼児はいったい何になるのだろう」と考えた」、「主の(恵みの)御手もまたたしかにこの幼児に働いていたのである(66)」と、ルカは、ヨハネ誕生の経緯を記しています。

⇒「マリヤが親類のエリサベツを訪ねた」時、エリサベツは、6カ月でしたので、月満ちたのは、それから4カ月ほど経過した時です。

- ⇒今年のクリスマス待降節は、「**マリヤへの告知**」、「**ヨセフへの告知**」、「**ヨハネの誕生**」と、時間の流れは逆になっています。
- ⇒クリスマス礼拝式のAS師の説教題が、「**救い主の誕生**」ですので、よい心の備えができます。
- ⇒「近所の者や親類は、主がエリサベツに大きな憐れみをほどこされたと聞いて、自分のことのように喜んだ」(58)と、喜びをもって、「**ヨハネ**」は、迎えられました。
- ⇒旧約の預言者の多くは、エリヤ、イザヤ、エレミヤらに代表されますように、苦難を背負っています。
- ⇒旧約の最大の預言者、**ヨハネ**も、例外ではありませんでした。妻サロメの要求を拒否できなかったユダヤ地方の領主ヘロデによって、いのちを落としました。**ヨハネ**も、預言しながら、薄々とは、自分の行く末は、感じていたようです。
- ⇒「(誕生から)八日目に、この人々が幼児に割礼を施すためにあつまったときのこと、(慣例もあり)父の名にちなんでザカリヤと

名をつけようとする、母親が、「いけません、ヨハネとつけなくては」と言って反対した」と、神の告知を受けた**ザカリヤ**からも手の合図で知っていたと思われませんが、「**ヨハネ**」と、名付けることに固執しました。

⇒「主の(恵みの)御手もまたたしかにこの幼児に働いていたのである」と、**ルカ**が記すように、**エリサベツ**も納得する「**主は恵まれる**」という意味の「**ヨハネ**」という名前でした。

⇒「**ヨハネ**」は、主の道筋を用意するため、水のバプテスマを授け、悔い改めるように勧めました。

⇒「聞いた者は皆これを胸におさめ、「この幼児はいったい何になるのだろう」と考えた」、「主の(恵みの)御手もまたたしかにこの幼児に働いていたのである(66)」とあるように、主の恵みは、幼い**ヨハネ**とともに常にあったのです。

⇒**ヨハネ**は、ヘロデに対しても、恐れたり、躊躇したりすることなく、大胆にヘロデの悪を指摘して悔い改めるように求めたのです(3:19)。

⇒「ヨハネの誕生」は、一貫して主の恵みの
わざで、「ヨハネの生、苦難、死」を御手の中
においておられたので、「ヨハネの死」を
悲しまれましたが、主は、十字架への道を
躊躇されることはなく、「ヨハネの殉教の死」
をも、主の十字架の死の先駆けとして受け
入れて下さいました。

⇒主は、生かすこともおできになりますし、死を
責任をもって背負って下さったからです。
ヨハネは、死にましたが、決して失われたの
ではなく、「**マタイ28:19、20**」の通り、世の
終わりまでともにいてくださるからです。

⇒◆マリヤの讚美の歌

- 46 マリヤが(神を讚美して)言った。――
『わたしの心は主を』あがめ、
47 わたしの霊は、『救い主なる神を喜び
たたえる、』
48 この『卑しい召使にまで目をかけて
くださった』からです。きっと今からのち
代々の人々は、『わたしを仕合わせ者と
言いましょう。』

- 49 力の強いお方がわたしに大きなことを
してくださったのです。『そのお方の名
は聖で、』
- 50 『その憐れみは千代よろず代とかぎりなく、
そのお方を恐れる者にのぞみ
ましょう。』

結論；

◇**神**は、変わらない愛と思いやりの神です。

◇新約聖書の**ルカ福音書**は、**神の民の救い**を神の福音として告げた書です。

◇本日は**クリスマス待降節第3主日**です。

⇒本日の「**ルカ福音書1章57～66節**」は、主が祭司ザカリヤに語り、「**罪からの救い主**」の先導者ヨハネがエリサベツに孕ませ、生れ、神のわざを信じなかったザカリヤのが解けて再び語れるようにして下さった箇所です。

◇「**ルカ福音書1章57～66節**」は、**老齡のエリサベツ**が、男の子を生むが、**マリヤ**や**ヨセフ**とは異なり、聖霊の介在を記していません。聖霊は陰に隠れ、ザカリヤとエリサベツの信仰の決断を問うことを求めています。

⇒「**ヨハネ自身**」が、**荒野で叫ぶ声**(3:4)とイザヤ書で預言された人でしたので、主の陰から陰に終わる人生を生き、ヘロデの愚かさのゆえ、そのいのちを落とすのです。

⇒人間の目には、意味のない人生を過ごしたのですが、「**御子イエス・キリスト様**」には、「**預言者以上の者(を見たの)だ**」(7:26)と見えて

- いたのです。主は、その心をご覧になります。
- ⇒「聞いた者は皆これを胸におさめ、「この幼児はいったい何になるのだろう」と考えた」、「主の(恵みの)御手も またたしかにこの幼児に働いていたのである(66)」と、先ず、主は、**ザカリヤ**と**エリサベツ**と近所の人々に喜びを与えて下さいました。
- ⇒神の恵みを全身に受けた「**ヨハネ**」は、主の恵みによって、殉教の死をも、受け入れる覚悟を備えて下さったのです。
- ⇒すべての人に殉教の道を主がお求めではありません。ペテロ、ヤコブ、ステパノ、パウロ等には、殉教の道を用意されましたが、**ヨハネ**には、100歳に及ぶ長い苦難の人生を与えて下さったのです。
- ⇒ガラテヤ2:19,20; <口語訳>
- 19 わたしは、神に**生きる**ために、律法によって律法に死んだ。わたしはキリストと共に十字架につけられた。
- 20 生きているのは、**もはや**、わたしではない。キリストが、わたしのうちに生きておられるのである。しかし、わたしがいま肉にあって

生きているのは、わたしを愛し、わたしの
ためにご自身をささげられた神の御子を
信じる信仰によって、生きているのである。